小児外科

科長　安藤 久實（教授）　5W

小児の外科的疾患に積極的に取り組む

昭和43年に研究グループとして誕生しましたが、診療科としての独立は平成９年と新しく、現在は東海地方唯一の大学院講座です。

診療体制

教授１、准教授１、講師１、助教２の計５名で年間約 400 件の手術（新生児 50 件）と15床の病床を稼働させています。外来日は月曜日（金子准教授）、水曜日（小野講師）、金曜日（安藤教授）の週３回です。

対象疾患

胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、先天性食道閉鎖症、胃食道逆流症、先天性腸閉鎖症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、嚢胞性肺疾患、気管狭窄症、神経芽腫、肝芽腫、リンパ管種、鼡径ヘルニア、臍ヘルニア、停留精巣など。

得意分野

胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症などの肝・胆道系疾患をはじめとして、生体部分肝移植、鏡視下手術などの最新の医療も積極的に行っています。また、新生児外科疾患や小児悪性腫瘍も他科との共同治療を行っており症例が多いです。

診療実績

2009 年の手術数は 370 件、そのうち新生児手術は 40 件です。胆道閉鎖症は最近 10 年間に51例で完全減黄率80%。小児肝移植49例、生存率89.8%。先天性胆道拡張症168例です。胃食道逆流症、ヒルシュスプルング病などの鏡視下手術は年間 48 例です。

専門外来

肝・胆道系疾患、腹腔鏡並びに胸腔鏡手術、摘出困難と思われる小児腫瘍の治療などに対する相談を月曜日、水曜日、金曜日の外来で行っており、セカンドオピニオン外来は随時受け付けています。

先進医療・研究

先天性胆道拡張症に対する胆管拡張機序の研究並びに先天性胆道拡張症における疼痛発現の蛋白栓形成機序の研究、胆管細胞培養、人工臓器の開発などにより科学研究費補助金、厚生労働省班研究費を毎年２件程度獲得しています。

総合診療科

科長　伴 信太郎（教授）　11W

何科を受診すべきかわからない場合でも心強い

当科は、身体と心、さらには家庭から社会まで視野に入れた全人的医療を提供します。

診療体制

教員９名（医学部附属総合医学教育センター、地域医療教育学講座教員、地域総合ヘルスケア・システム開発講座教員を含む）、医員５名、後期研修医２名、研修登録医２名、診療従事者２名が診療に従事し、毎日再診外来２～３診、初診外来３～４診、入院病床 10 床前後を運営しています。

対象疾患

どのような健康問題でも対応します。そして、専門的な診療が必要な場合は専門診療科に診療を依頼します。また、専門診療科からのコンサルテーションも受けます。

得意分野

さまざまな健康問題を抽出し、それらを総合的に解釈し、問題解決へと導きます。予防と医療と福祉を連続したものとして扱い、そのすべてに関わっていきます。

診療実績

再診外来患者数は１日約60人、初診外来患者数は１日15～20人です。入院診療は主科10名前後、副科２～５名を担当しています。時間内救急外来のバックアップ、毎週月曜日の夜間救急と日勤帯の救急車以外の救急患者の診療も担当しています。他科からのコンサルテーションは30件／月前後です。

専門外来

特定の病態や臓器を専門に扱う外来はありません。木曜午前に漢方薬を主とした治療を行う外来あり。

先進医療・研究

教育に関する研究、診療に関する研究、疫学研究など多岐にわたる研究に取り組んでいます。それらに共通することは、臨床あるいは医学教育を行うなかで生じた疑問やニーズに立脚していることです。